

## 青木 大也

法学研究科・准教授

### 【研究】

今年度は代表者を務める科研費基盤Cの研究1件をはじめ、科研費の分担者2件、その他資金の分担者2件の助成のもとで研究を進め、判例集である共著書籍『知財判例コレクション』(有斐閣)の公開を含め、論文2点、判例評釈1点、分担執筆書籍3点を公表し、トウールズ第一大学、ストラスブール大学(CEPI)との国際セミナー2件を含む口頭発表5件を行った。

また、知的財産研究所による特許庁委託研究の研究者として、画面デザインの意匠法による保護をめぐる日中共同研究に関与し、また日本弁理士会中央知的財産研究所の研究者として研究会への参加・報告・公開フォーラムでの成果還元に関与した(後者は上記5件の口頭発表に含まれる)。

### 【教育】

今年度は大学院知的財産法プログラムの講義8単位を担当した(オンラインだったため、梅田教室への移動はなかった)。

また博士前期課程1年次5名、2年次6名を担当した。

### 【管理運営】

法学研究科教務委員会委員、広報室委員、評価室委員等を務めた。

また知的基盤総合センター兼任教員として、運営委員会、センターの研究企画、特にセミナーの開催や科研費の申請、智適塾の運営に携わった。

加えてELSIセンターの兼任教員も務めた。

### 【社会貢献】

政府機関では、産業構造審議会下の意匠制度小委員会、意匠審査基準WG、弁理士制度小委員会の各委員を務めた。また工業所有権審議会弁理士試験委員として弁理士試験の運営に関与した。また特許庁での研修講師を3件務めた。

民間では、先述の日中共同研究・中央知的財産研究所での活動のほか、改正法を話題とした弁理士グループの懇談会に参加した。

また、大阪市立高校に対し2件の出前講義を行った。

加えて、高校生向けに法学部を紹介する『「法学部」が面白いほどよくわかる』(法学教室増刊)に寄稿した。